

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201132		
法人名	医療法人翠山会		
事業所名	グループホーム なかよし		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町81-3		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間を通して花のある環境作りをし、穏やかに生活していただけるよう心掛けています。食事に関しては特に力を入れ、正月、盆、彼岸、節句など日本の伝統を大切に、その時々合った食事を提供して楽しんでいただいています。身体、精神能力を低下させない為、レクリエーション、手芸、音楽療法等を取り入れ、楽しみながらレベル低下を防ぐ支援を行っています。季節ごとに行事を企画し、花見(桜、バラ、菖蒲、コスモス等)、温泉、外食、ドライブなど外出の機会を多く持つようになっています。また1日1回は外の空気が吸えるよう、一緒に洗濯物干しや、花の水やり等を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市街地にほど近い小高い場所にあり、敷地内には母体老人保健施設と系列のグループホームがある。事業所は職員育成に力を入れており、各種内部研修の開催、および外部研修の受講を職員は現場に生かしている。知識の多さは職員の介護職としての意識を高めており、利用者と優しく見守る支援を実現している。そのため個人記録の情報量が多く、次に繋がる貴重な資料となっている。また地域や家族からの意見を常に取り入れ、サービス向上に積極的に取り組んでいる。多くの見守りの目があり、利用者は生き生きと生活をしており、「元気で、楽しく、ゆっくり」という理念を実現しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域に開かれたものになるよう、地域社会の一員として生活出来るように」との支援目標を掲げ、全職員が理念を理解し支えていくように取り組んでいる。	5つの理念のもと、「元気で楽しくゆったりと」のサブ理念実現に向けて日々の支援の振り返りを行っている。日常では朝の送り時理念の唱和を行い、全職員の理解のもと支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の公民館まつりに参加させていただき、ご利用者の作品を出品したり、見学に行かせていただいている。食材も地域の商店から取り寄せ、配達していただき、交流する事ができている。	日々のレクリエーション活動で作成した手工芸品や書道の作品などを法人の文化祭や地区の公民館まつりに出品し地域との触れ合いを心がけている。本年も出品依頼を受けている。小学校通学路に面しているので下校時に立ち寄るなど地域の一員としての施設になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小、中、高校の社会科の学習の場として、毎年提供している。小学生が下校時にトイレを借りに来たり、時間を聞いたりと立ち寄り、交流を持つ事が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を行い、ご利用者へのサービスの実際の報告や、参加者様からの率直な意見を出して頂き、サービス向上に活かすようにしている。	偶数月、規定参加メンバーで年6回開催されている。ホーム状況報告や行事内容の他に意見交換をしている。民生委員から独居の情報があり、また地域の交番から参加があった時は防犯について話があるなど会議は有効に活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点などは運営推進会議担当の市の職員をはじめ、県・市の長寿社会課や高齢者支援センターに電話で質問したり、情報を頂いている。	運営推進会議に参加している市職員に状況把握してもらっており、他の担当課には疑問や質問がある場合に電話で連絡を取り合い情報の提供など得ており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は、身体拘束について正しく理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいるが1階玄関のみ、1階に職員が不在の時は警察の指導もあり、不審者などの進入防止の為、施錠を行っている。	法人内に身体拘束廃止委員会があり職員が参加し勉強する機会を設けている。利用者に対する職員の声かけは優しく穏やかであり言葉による拘束のないよう支援している。1階玄関施錠は構造上やむを得ない状況であり、警察からの意見も受けて職員不在時は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	講演や研修に参加して学ぶ機会を持っている。言葉遣い等も折に触れ、注意していくようにしている。外泊後は入浴時に外傷やアザがないか確認する様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はおられないが、研修の機会があれば積極的に学んでいき、必要な方がおられたらしっかり支援していきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居時にはご利用者やご家族に対して、十分に説明を行い、理解、納得して頂ける様努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会話の機会を多く持ち、会話の中から不満や要望を引き出す様に心掛けている。ご意見箱も設置している。検討すべき点はケア会議にて話し合い、対応策を考えていく様にしている。ホーム便りでも呼びかけている。	日常の会話の中から利用者や家族の意見要望など聞き、遠方の家族には電話で近況報告をして要望など聞くようにしている。利用者への面会簿設置について家族からの意見要望があり職員で検討し、改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回以上職員会議を行い、職員の意見を聴く機会を設けている。必要に応じて、その都度意見を聴く様に心がけている。また行事の後にはその日の内に反省会を行い、次につなげていく様にしている。	月1回の職員会議とは別に必要に応じて随時会議を設けている。職員から出された意見や支援に伴い物品購入等の要望は検討し、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者、職員個々の状況や能力を把握し、給与水準や資格取得の支援等、やりがいをもちながら働ける様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に内外の研修を受ける様働きかけ、なるべく多くの職員が受講出来る様にしている。研修報告書はレポートして、回覧にて閲覧出来る様にし、職員全体のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の活動を通して、他のホームの職員の方との交流や勉強会の参加で知識の習得が出来ている。相互訪問を行う事でよい物を取り入れていき質の向上につなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談でこれまでの生活状態や生活歴、性格などを把握する様努め、ご本人の心身状態や思いに向き合い、安心して利用を始めて頂ける様心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学訪問時等に出来る限り多くの会話を持ち、要望等気軽に言ってもらえる様な雰囲気作りを心がけている。入居後もたくさん声かけを行い、不安を解消して頂ける様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談でご利用者、ご家族の状況を知り、他の事業所からの情報提供等により必要なサービスが提供出来る様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節に合わせた料理作りや漬物作り、干し柿作り等、昔とったきねづかを発揮出来る様な場を作り、長年培われた知恵や知識等を頂き、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を理解し双方が良い関係を築ける様、お互いの意見を尊重し支援していく様に努力している。行事参加へのご案内をし、一緒に時間を共有して頂ける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問時にはお茶を出し、ゆっくりと過ごして頂ける様に配慮し、大切な関係がより良いものになる様努めている。またご家族と協力しながら馴染みの場所へも出かけられる様支援している。	友人の面会があり、家族との外出時を利用して友人宅へ訪問してもらうなど家族の協力を頂ながら支援している。馴染みの美容室は外泊時に利用している。利用者の生活状況を電話連絡する際には面会を依頼するなど馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日レクリエーションを行い、洗濯物干しやシワ伸ばし等複数の入居者と一緒にやる事により、関わり合いが出来る場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され他の施設や病院へ移られても面会に行く等、つながりを断ち切らない様になっている。また亡くなられた時には、出来るだけお悔やみに行き、ご家族の気持ちになりお見送りする様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に声かけを行い、希望や意向を聞き取り、穏やかに暮らして頂ける様、他の職員とも情報を共有し本人主体の生活が出来られる様支援している。	思いや希望を言葉に出来る人、表す事が苦手な人などあり、目配り、気配り、声かけで把握するよう心がけている。夜勤時リビングで話をする利用者や午後からの午睡時に居室に伺い話を聞き、職員間で話し合いの時間を設け思いを確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前の調査で個人情報を把握し全職員が周知し、可能な限り今までと同じ様な生活が出来られる様支援に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子を正確に記録し、職員間の申し送り、情報伝達を確実にし、全職員が把握し、小さな変化も見落とさない様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向を一番に考えながら、こまめにご家族や関係者と話し合いを行い、それぞれの意見を反映しながら現状に即した介護計画を作成している。	利用者と家族の意向を聞き取り、介護計画原案を立て職員全員で検討し作成している。完成した介護計画は担当者が家族へ説明を行い同意を得ている。個々の介護計画に基づき日々チェックできるよう工夫し、月1回のケア会議において介護目標の確認に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に毎日の生活の様子やケアの実践結果を記入しているほか、業務日誌や申し送りノートを活用し、勤務開始前には必ず目を通し、サインする様にし、情報を共有し、実践や介護計画の見通しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である老健施設や協力医をはじめ美容室への送迎等ニーズに対応出来る様取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵本の読み聞かせや、絵画教室のボランティアの方を受け入れている。小、中、高校の体験学習の場として提供したり、消防、警察からの協力も得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と連携し、適切な医療を受けられる様支援している。必要に応じて専門医やかかりつけ医の受診をご家族と協力しながら行っている。	協力医へは職員が通院介助、かかりつけ医の継続受診は家族の協力の旨は入居説明時に行っている。連絡があれば職員介助も行われている。受診内容は家族からも報告があり共に情報を共有しており、緊急時の協力医との連携体制も確立している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の老健の看護師や協力医の看護師と気軽に相談出来る関係が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と連絡を密に取り合い、情報交換や相談をしている。早期退院、退院後の生活についても担当医や看護師からの情報を頂き、スムーズに入院前の生活に戻られる様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や母体老健との連携が取れていて、特変時には24時間対応出来る様になっている。看取りについても、意思の確認を取り、早期からの話し合いや関係者全体の方針の統一が図れる様努力している。同意書も頂いている。	入居説明時に、終末期についての説明がされており、同意も得ている。状況に応じて医師、家族と話し合いをし、看取り体制もしくは他施設へ検討が十分に行われている。職員は母体老健で開催されている研修に参加している。主治医とも24時間連携をくんでおり体制づくりを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より急変時の訓練を行っている。(AED、吸引機、酸素吸入等)また、母体老健での勉強会や研修会に参加したり、急変時のマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入社時より災害時の研修を行っている。避難訓練は消防署の指導を受けながら行っている。母体の老健や近隣の方からの応援も受けられる様になっている。非常食や飲料水も備蓄している。	自然災害時のマニュアルや母体と共に災害マップの確認を行っており、備品も備えている。年2回夜間想定を含み行っており、内1回は消防署の立会いで実施している。自動連絡装置の動作確認、避難経路の確認も行われている。ただし地域との連携は取られていない。	火災や災害発生時などホーム外に誘導後など地域住民の助けが必要な場合もある。またホーム安全対策の広報のためにも地域住民の参加を検討してもらうことを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者への尊厳の意を持ち、誇りやプライバシーを損ねる事が無いよう、折に触れ全職員に周知するようにしている。また親しくなり過ぎて、尊厳を傷つけるような言動にならないよう配慮している。人生の先輩として敬意を持って接する様に心がけている。	利用者の呼び方や会話には注意を払っており、接遇を研修に入れ職員に周知徹底している。失禁時などは羞恥心に配慮し、さりげない対応を行っている。ミーティングではイニシャルを使い周囲に配慮している。職員も守秘義務を徹底し、誓約書を作成している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを伝えられるような雰囲気、または言葉かけを行い、個々の理解力に添った説明をし、自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの希望に合わせてレクリエーションや入浴、手工芸などを行っており、決して無理強いはずその方のペースで暮らしていけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	母体施設に訪問美容室があるので、そこを利用される方には送迎の支援を行っている。また、日常の整容や衣服の購入の支援も行っている。行事参加の際にはお化粧も楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備、配膳、盛り付け等を能力に応じて参加して頂き、職員と一緒に作り、穏やかな雰囲気の中で同じ物を一緒に食べ、楽しみを共有している。誕生会では好きな物を聞き、お出しするようにしている。	事業所は利用者の嗜好や希望などを含み旬の食材を利用して調理専門の職員が調理している。誕生会にはケーキや希望の献立を作ったり、季節毎の献立を取り入れ食事を楽しむ工夫をしている。ただし、行事食などの特別なメニューでは量の調節が必要な場面がある。	年2回、管理栄養士が献立をチェックする際には、普段の食事、行事食などカロリー計算を取り入れることが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量表に毎日記録をし、個々の食事量を把握している。お一人おひとりの体調や食べる量に応じて盛り付けを工夫したり、栄養バランスを考えて支援している。夜間の水分補給も個々に準備し、自由に飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声掛け見守りを行い、お一人おひとりの能力に応じて介助しながら、口腔ケアをして頂いている。気になる症状のある方には、歯科の往診を受け、治療して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後やご利用者の表情を読み取り、トイレ誘導を行っている。失敗してしまった場合でも、他のご利用者に気付かれない様に支援している。また、出来るだけオムツを使用しない様に支援している。	排泄表を作成し、時間やその日の回数を見ながら日中トイレ誘導を行っており、自身で行く利用者もいる。紙パンツから布パンツへの軽減事例がある。体調によって紙パンツもあるが、状況を見ながら布パンツへの検討をし支援をしている。夜間はポータブルトイレを利用しているが、気になる臭気はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質のある食材を多く取り入れ、水分量や食事量にも注意し、運動を促している。排便状態を記録に残し、主治医への報告を行い、服薬支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴を行っているが、ご本人の希望に合わせてシャワー浴や足浴で対応し、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	週3回を入浴の目安にし、午後から入浴時間になっている。拒否があっても強制はせず時間や声かけで対応している。車いす利用者は2人体制で入浴介助をしており、好みの湯温やゆっくり会話する時間を取ることで入浴を楽しむ支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動して頂き、夜間の睡眠が十分に取れるような働きかけを行っている。室温や寝具の調整にも気を配っている。必要な方には、服薬支援をして、安眠して頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書にしっかり目を通し、その薬の効能、副作用等を把握している。薬の変更時は申し送りを徹底している。ご家族と他科受診された際は、服薬介助依頼書に記入して頂き、誤薬がない様にしている。また、定期的に薬剤師による服薬指導がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸が好きな方と一緒に花の植え替えをしたり、梅干し、らっきょ、干し柿作りをしたりと、これまでの生活歴を活かした支援をしている。手工芸等その方に合った作品作りを楽しまれている。また、季節ごとの行事に参加して頂き、楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じて頂けるよう、散歩やドライブ、外食等を行っている。また、日光浴、外気浴をしながらホーム近くの広場や裏庭で花を眺め、おやつを頂く機会を作っている。また、可能なご家族には協力を得て、外出、外泊の支援を行っている。	毎日散歩や洗濯干し、花壇手入れやひなたぼっこなど外に出る機会を設けている。週1度は母体老人保健施設のレクリエーションに全員で参加している。季節の花見や温泉、外食など企画し、戸外へ出る支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出し、買い物をされる場合には、ご自分で管理できる方にはお渡しし、難しい方には一緒に付き添い、介助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができ、プライバシーが守られる様、子機を利用し居室で使えるように支援している。手紙のやり取りが出来る様に切手や葉書の購入の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったり、ネームプレートには季節感が感じられる様な飾り付けをしている。レースのカーテンを使用し、光に対しての対応をしている。ホールにはテレビ、ソファを設置し、ゆっくり寛いで頂けるよう配慮している。	ホーム内には季節の花や飾り付けがあり、利用者の表れも季節を表す装飾が施されており配慮している。玄関掲示板には行事の様子やお知らせなどわかりやすく表示されている。朝夕2回、職員が清掃を行っており、ホーム内の温度、換気も十分に行われ居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2人掛けのソファがあったり、和室があったり、エレベーター前には木のベンチがあり、それぞれ好きな場所で過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、植物の好きな方は部屋に沢山の植物を持ち込まれる等、個性溢れる居室となっている。位牌を持ち込み、毎朝手を合わせられている方もおられる。部屋にポータブルトイレを置かれている方は布で覆い、居心地良く過ごせる様に工夫している。	利用者が使い慣れたタンスなどの調度類は自由に持ち込むことができる。居室内の配置も利用者が馴染んで生活しやすいように行われ、家族との写真や位牌などが置かれている。ポータブルトイレ不使用時は布で覆う配慮がある。毎朝職員が清掃を行い、室温や換気の管理も適切に行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内にはわかりやすいように、トイレや浴室など、部屋ごとにプレートで表示してある。また、バリアフリーとなっており、安全面にも配慮した作りとなっている。その中で自発的に掃除機やモップ掛けをされる方もいて、自立した一面を見る事が出来る。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201132		
法人名	医療法人翠山会		
事業所名	グループホーム なかよし ユニットB		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町81-3		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療・施設を母体とし、いかなる状況においても対応出来るシステムが整備されている。昔から伝わる日本の行事(正月、盆、彼岸、節句、雛祭等)を大事にし、その時々合った食事を提供している。食事に関しては特に力を入れ、バランスの摂れた献立を作り、季節感が味わえる旬の食材を使い、おやつ等も手作りで提供している。個々の身体、精神能力が低下しないよう、レクリエーション、手工芸、音楽療法等を取り入れ、個性を尊重した、その方らしい生活支援ができるよう実践に取り組んでいる。年間行事として、季節ごとに行事を企画し、「花見(桜、バラ、コスモス、梅)、温泉、外食、ドライブなど、外出の機会を多く持つようにしている。地域社会との関わりを持ち、社会資源の把握、中高生の体験学習を取り入れ、それがご利用者の喜びとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に開かれたものとなる様、地域社会の一員として生活出来る様支援する」と基本理念を掲げ、「元気で楽しく、ゆったりと」を目標に、地域の中でその人らしく暮らせる様、毎日朝礼で基本理念を復唱し理解しあい、全職員が日々の支援に取り組む様努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「子供110番の家」の取組みや通学途中の小学生の立ち寄り(トイレ使用、時刻の問合せ)に協力し、当施設での行事への招待(ホスター掲示)を呼びかけ、地域行事・地区の公民館祭りにもご利用者と一緒に作成した作品を出展し、見学にお連れし、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	体験学習の場として、地域の中高生を数多く受け入れている。また、地域の方による読み聞かせや絵画教室等のボランティアによる支援も頂き、理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、内容はご利用者の近況報告、行事報告、行事予定、施設の様々な取組みを報告し、地域や行政、ご家族様より意見を頂き、サービス向上へ活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議担当の市の職員をはじめ、疑問点等、県、市の長寿社会課へ電話で質問したり、介護支援センター職員との交流を持ち、情報を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加を通じ、参加した職員の内容報告や、当法人内の身体拘束廃止委員会に参加した職員の報告により、全ての職員は身体拘束について正しく理解しているが、1階玄関施錠は、1階に職員が不在時、警察の指示もあり、防犯の為施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修に参加して学ぶ機会を持っている。言葉遣いにおいても注意していくようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はおられないが、研修の機会があれば積極的に学び、必要な方へは制度を利用して頂ける様に支援していきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に重要項目を十分に説明し、疑問点をもらい、理解、納得頂き同意を得ている。又、改定等の際には、ご利用者やご家族に直接説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を1階エレベーター前に設置し、ご利用者との会話の中やご家族の面会などの近況報告の折、意見等をお尋ねする様働きかけ、検討すべき点はケア会議で話し合い、迅速に対応し、施設全体の苦情処理委員会で問題点や結果等を報告後、全職員に回覧している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回はケア会議を行い、職員より意見や提案を聞く機会を設けている。常に意見を出し合える雰囲気になり、出された提案は検討し、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は企業評価、自己評価を行い、管理者、職員個々の状況や能力を把握し、給与水準や資格取得の支援など、やりがいをサポートして働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に、内外の研修を受けるよう働きかけ、できるだけ多くの職員が受講出来るようにしている。研修報告書を全職員に回覧する事で、職員全体のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での交流を通じ、他のホーム職員の方々との意見交換が行え、勉強会の参加で知識の修得が出来、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、今までの生活状態、生活歴を十分把握し、ご本人との会話や話を傾聴し想いを共有する事で安心できる信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者やご家族の不安や要望を気軽に言ってもらえる様な雰囲気作りに心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、ご利用者、ご家族の状況を知り、他の事業所からの情報提供等により、必要なサービスが利用出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、人生の先輩としてご利用者より多くの事を学び、料理作りやらつきよ漬け、干し柿作り等、教えていただく事も多く、喜びを分け合い、共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を理解し、双方が良い関係を築けるようお互いの意見を尊重し、面会時、又は電話等で近況報告を行い、様々な場面で協力頂き、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々が面会に来られた際は、ゆっくりと過ごして頂ける様、お茶、お菓子でもてなし、一緒に写真を撮りそれを居室に飾ったり、大切な関係がより良いものになる様努めている。又、ご家族の協力により、正月、盆の外泊など、関係継続の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方々と食事の席では隣席にしたり、毎日のレクリエーションへの参加や一緒に洗濯物のシワ伸ばしや洗濯物干しを手伝っていただく事等により、互いの関わり合いが出来ている。又、職員も仲を取り持ち、皆様が楽しく和やかに暮らせるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、面会や電話でご様子を伺ったり、これまで築いてきた関係を大切に、ご本人やご家族より相談などあれば、出来る限りの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりや、会話の中での言葉や表情で、いち早く真意を確認し、ご本人本位の支援に努めている。困難な場合には、ご家族の希望や意向、情報を得て本人本位の支援に役立てている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員がご本人の生活歴、生活環境をよく理解し、可能な限り今までと同じ様な生活が出来るよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態など、常に現状を把握出来るよう、個人記録や業務日誌、申し送りノートを活用し、毎日の朝礼の申し送りには情報伝達を確実に行之、小さな変化も全職員が把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ケア会議を行い、ご本人、ご家族の希望を取り入れ、課題やケアの方法を関係者と話し合い、多くの意見を取り入れながら、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌、申し送りノートを活用し、日常の様子や変化、気づきなど、大切な情報を共有し、朝礼にて確実に申し送り、ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である老健施設や協力医(歯科、眼科)をはじめ、美容室への送迎など、ご本人、ご家族のニーズに対応出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵本の読み聞かせ、紙芝居、絵画教室のボランティアの方を受け入れ、自由に参加できる機会を設けている。又、生花の日を設け、思い思いの我流にて生花をされ、居室に飾られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療機関で週1回の往診が必ずあり、健康で安心した生活をして頂けるよう支援している。又、利用前からのかかりつけ医の受診は、ご家族へ対応をお願いしているが、時として職員が支援する場合がある。受診結果は相互に連絡し合い、記録している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の変化や気づきを、かかりつけ医の看護師へ相談、報告している。また、母体である老健施設の看護師へも相談し、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と密に連絡を取り合い、情報交換、相談をしている。早期退院、退院後の生活についても担当医や看護師から情報を頂き、安心して入院前の生活に戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、看取りに関する説明を行い、同意書を保管している。又、職員もそれを理解している。日頃から密に連絡を取り合い、意思の確認を取り、早期からの話し合いや、関係者全体の方針の統一が図れる様、協力関係を築いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より、急変時の訓練を行っている(AED、吸引機、酸素吸入、人工呼吸等)。又、母体老健での勉強会や、研修会に参加したり、急変時のマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの元、夜間を想定し避難訓練を行っている。母体の老健より応援を受けるシステムが整っており、災害対策として、飲料水を購入し、備蓄している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者へ尊厳の意を持ち、言葉掛け、言葉遣いは常に心掛けている。又、誇りやプライバシーを損ねる事が無いよう折に触れ、全職員に周知するようにしている。月1回の新聞発行における写真掲載においてもご本人、ご家族の同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で、ご本人の想いを伝えられるような雰囲気作りを行い、自己決定出来るような言葉かけを行えるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のそれぞれのペースでゆったりと生活出来る様支援している。ご本人の希望により、レクリエーションや手工芸等に参加頂いている。外出、散歩、買い物等の支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好み(好きな色、好きなデザイン)を良く知り、その方らしいおしゃれが出来るよう入浴準備の折、一緒にコーディネートしあったり、衣服購入の支援を行っている。母体施設に訪問美容室があり、送迎の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど、出来る事を一緒にして頂いている。お湯飲みは使い慣れた器を使用していただき、季節感を感じられるよう旬の食材を利用し、職員は同じ食卓を囲み、和やかな雰囲気、音楽を聴きながら食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量表に毎食記録をし、個々の食事量を把握している。体調や食べる量に応じて、食欲をそそる盛り付けを工夫したり、栄養バランスも考えて支援している。又、いつでも水分補給ができる様、環境を整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず職員が声掛け見守りを行い、お一人おひとりの能力に応じ、介助をしながら口腔ケアをして頂いている。毎日夕食後は、義歯をポリドントに漬け、衛生面にも配慮している。又、気になる症状のある方には、歯科の往診を受け、治療をして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを記録し、把握する事で、支援を行い、リハビリパンツではなくできるだけ綿パンツを使用頂き、ご利用者の表情を読み取り、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を大切にして、日々の支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録に残し、水分補給や食事摂取量にも注意を払い、食材に繊維質の多い物を選んでいる。又、主治医への報告を行い、服薬支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回(月・水・金)入浴を行っているが、希望があれば、いつでも対応出来る状態である。浴室には一応の入浴順番表を作り、順番を決めているが、その時のご本人の体調に応じ、変更しながらゆったりと気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活リズムを把握し、リビングにて会話したり、居室にて音楽を聞きながら休息したり、安眠できる支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明に目を通し、その薬の効能、副作用等を把握している。薬が変わった時は申し送りを徹底し、症状の変化にも注意を払っている。又、定期的に薬剤師による服薬指導がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの出来る事、やりたい事を把握し、季節を感じられるらっきょ漬け、ツワ・フキの皮むき、干し柿作り等も一緒に行っている。手工芸等もその方に合った作品作りを楽しまれ、季節ごとの行事にも参加頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気に触れるよう、近くの広場へ散歩したり、ホームの花壇を観ながら手作りおやつを頂かれている。毎年の行事として、花見、外食、温泉、初詣等にお連れしている。又、ご家族にも協力をお願いし、外出、外泊の支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る方はご自分で小額のお金を持たれている。又、ご本人、ご家族の希望により、お預かりしている方の場合、必要な時、ご自分で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかける事ができ、居室でゆっくり会話出来るよう、プライバシーが守れるよう支援している。又、手紙のやり取りが出来るよう、切手等の購入支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月単位で季節にちなんだポスターを協同で作成し、入口正面に掲示している。清潔保持に努め、温度、湿度の管理を行い、リビングの出窓には季節の花が飾られ、ソファや畳など思い思いの場所で居心地良く過ごせる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも、一人でゆっくりと新聞を読んだり、ソファでテレビを観たりされている。又、テーブル席で気の合う方同士、話をされていることも多く、お一人おひとりが思い思いに過ごしていらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた好みの品を飾る等、出来る限りご自宅に近い感覚で、居心地良く過ごして頂けるような工夫をしている(ご家族の写真、好みの植物、位牌等を置かれている)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全てバリアフリーになっており、車椅子や杖歩行でも安全に移動出来る。また、居室入口には写真入りの表札を掲げ、可能な限り、自立した生活が送れるよう工夫している。		